

平成26年度

大学病院情報マネジメント部門

連絡会議

抄録集

大学病院情報マネジメントのさらなる前進に向けて

～病院情報マネジメントの推進エンジンを考える～



会期 平成27年2月11日(水・祝)～13日(金)

会場 岐阜グランドホテル (岐阜県岐阜市)

後援 公益財団法人 岐阜観光コンベンション協会

大会長 紀ノ定 保臣 (岐阜大学医学部附属病院 医療情報部長)

ご挨拶

平成 26 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議

大会長 紀ノ定 保臣

(岐阜大学医学部附属病院 医療情報部長)

謹啓

新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、平成 27 年 2 月 11 日(水)～13 日(金)の 3 日間にわたり、岐阜市の岐阜グランドホテルを会場として、平成 26 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議を開催する運びとなりました。

本会議は、国立大学病院のみならず、公立・私立大学病院等の情報マネジメント部門に関わるあらゆる職種の方々が一堂に会し、医療の質や安全性の担保・向上、病院の経営・業務の効率化と円滑化等について議論を交わす貴重な場であり、長年にわたって病院情報マネジメント部門の管理・運営に関する文化を醸成する機会を与えてきました。また、病院の職員のみならず、情報システムの開発・導入・運営等に関わる企業の方々にとっても、医療現場で情報システムを如何に効率的・効果的に稼働させるかの知見を得る貴重な機会になると存じます。

平成 26 年度の本連絡会議においては、「大学病院情報マネジメントのさらなる前進に向けて ～病院情報マネジメントの推進エンジンを考える～」と題して、ビッグデータ時代に、病院の中に蓄積されている膨大な臨床データや管理データを次世代の医療提供体制の構築や情報マネジメントの進化にどのように活用するのか、また高度医療専門職の人材育成にどのように役立たせるのか、等について議論を深めたいと思います。さらに、災害時対策バックアップシステムの運用、臨床研究や治験の活性化を含めた医療イノベーションの推進に貢献する体制作り等についても意見交換したいと考えております。

病院情報システムは、初期の医事会計システムやオーダーエントリーシステムの開発・導入・運用から、ペーパーレス・フィルムレスの電子カルテシステムを稼働させる時代に入り、さらに地域医療連携システムを稼働させるまでに至っております。これらシステムの電子化は膨大な保健・医療・介護データの蓄積を可能にしました。今や、医療ビッグデータの活用を通して、社会に貢献する病院情報システムのあり方を議論する段階に入ったと言えます。

多くの方々に風光明媚で、歴史的にも重要な役割を果たした岐阜の地に足をお運び頂き、大学病院情報マネジメントのさらなる前進に向けて建設的な議論ができる場を提供したいと希望しております。

謹白

平成 27 年 2 月吉日

日程表

2月11日(水)

	8	30	9	30	10	30	11	30	12	30	13	30	14	30	15	30	16	30	17	30	18	30	19	30	20	30	21	
研究会 孔雀(東)の間 (本館2階)																												
幹事会・部長会 花(南)の間 (西館2階)																												
部長懇親会 長良の間 (西/本館地下1階)																												

2月12日(木)

A会場 雪の間 (西館2階)																												
B会場 月の間 (西館2階)																												
C会場 花(南)の間 (西館2階)																												
D会場 花(北)の間 (西館2階)																												
E会場 孔雀(西)の間 (本館2階)																												
P会場 企業展示会場 ロイヤルシアター (西館地下1階)																												
展示ルーム ロイヤルシアター (西館地下1階)																												

2月13日(金)

A会場 雪の間 (西館2階)																												
楓の間 (西館2階)																												
P会場 企業展示会場 ロイヤルシアター (西館地下1階)																												
展示ルーム ロイヤルシアター (西館地下1階)																												

※総合受付(西館2階ロビー)、クローク(本館1階(既存)、写真室(西館1階))

開会式

日時：2月12日（木）8：45～9：00

会場：A会場（西館2階・雪の間）

基調講演

大学病院マネジメントの現状と課題

日時：2月13日（金）9：00～10：00

会場：A会場（西館2階・雪の間）

座長：生熊 道憲（岐阜大学医学部附属病院）

講師：手島 英雄（文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長）

セッション

1 病院マネジメント（事務）

病院運営を支える事務組織の活性化・人財育成について

日時：2月12日（木）13：30～15：30

会場：A会場（西館2階・雪の間）

座長：生熊 道憲（岐阜大学医学部附属病院）

超高齢化社会の到来、高度化する医療、これらに伴う医療制度の改革等、医療現場を取り巻く環境や社会情勢が時々刻々と変化するなかで、国立大学病院をはじめそれぞれの病院において病院運営を支える事務組織の活性化・人財育成について様々な取組みがなされているところ
です。

そこで、今回の事務セッションでは病院運営に関わる事務組織の活性化・人財育成に焦点を当て、診療の現場と乖離しがちな事務との繋がりを深める取組事例、病院業務に関する医療情報の活用事例等、各病院での様々な取組みの導入やその運用による効果、問題点や課題を含め、今後の展望等について議論します。

1. 京大病院における特色ある組織と取組の紹介

～診療報酬センターの設置及びその取組について～

國友 陵一（京都大学医学部附属病院）

2. 医事課の業務再編（事務組織の活性化を目指して）

石坂 雅志（神戸大学医学部）

3. 岡山大学病院における臨床研究支援体制の再編について

平尾 真也（岡山大学病院）

4. 大学病院間連携による人財育成と活用法

～九州地区における国立大学病院事務部の連携モデル～

九州地区国立大学病院事務部長会議

2 病院情報システム

学生教育

日 時：2月12日（木）9：00～10：30

会 場：A会場（西館2階・雪の間）

コーディネーター：紀ノ定 保臣（岐阜大学医学部附属病院）

座 長：津久間 秀彦（広島大学病院）

浜野 英明（信州大学医学部附属病院）

医学教育の国際的な認証評価（いわゆる「2023年問題」）に向けて、医学教育の見直しが検討されており、その一環として診療参加型臨床実習への取り組みが必要とされている。一方で診療看護情報の電子化が加速する状況の中で、臨床実習での患者情報収集や実習記録の管理・活用に関して、紙媒体の柔軟性の陰に隠れていた様々な問題が表面化している。しかし各（国立）大学が、臨床実習で医療記録をどの様に取り扱っているか、全国的な状況把握がこれまであまりなされてこなかった。そこで平成25年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議（徳島）の「病院情報システムセッション」に向けて、国立大学の医学科を対象にアンケートによる現状調査を行った。しかし会議の直前に急きょ実施したため回答率が悪く（38%（16/42））、昨年度の会議は暫定的な議論に留まった。そのため昨年度会議後に締め切りを延長して4/5の大学から回答を得ることが出来たので、本年度再度状況把握と課題の検討を試みることにした。

本セッションではまず、岐阜大学医学教育開発研究センターの鈴木 康之先生に、医学教育に求められる質保証と国際認証の動向について解説をいただく。次に上記アンケート調査結果に基づき、「電子化の進展」と「診療参加型臨床実習への対応」の二つの流れの中で、「(1) 教育の場面での患者情報の保護と活用、(2) 診療参加型臨床実習への対応状況と電子記録の取り扱い方」に関して、大学ごとの取り組みが多様な状況であることを報告する。医学教育の国際的な認証評価を見据えた時、これまでのような大学ごとの対応で良いのか、共通的な方法を検討すべきなのか、その場合どのような方法が理想的なのか、また実施可能なことは何か等について、主に「患者情報の閲覧制限のやり方」「学生記録の医療チームで共有するか否か」「学生記録を電子カルテの一部とするか否か」に焦点を当て、典型的（特徴的）な運用・実装を行っているいくつかの大学に事例発表をお願いし、今後の方向性について会場の参加者を交えて議論したい。

1. 医学教育に求められる質保証と国際認証への対応

鈴木 康之（岐阜大学医学教育開発研究センター）

2. 医学科臨床実習での医療情報の運用状況と課題

～国立大学病院へのアンケート調査結果を基に～

津久間 秀彦（広島大学病院）

3. 事例報告

～「患者情報の閲覧制限、実習記録の位置づけ・情報共有」のシステム方式・運用の違いを中心に～

3-1) 鈴木 隆弘 (千葉大学医学部附属病院)

3-2) 坂井 清太郎 (九州大学病院)

3-3) 遠藤 晃 (北海道大学病院)

3-4) 廣瀬 隼 (熊本大学医学部附属病院)

4) ディスカッション

3 部長会 (災害)

災害対策・BCP

日 時：2月12日(木) 10:30～12:00

会 場：B会場(西館2階・月の間)

座 長：大江 和彦(東京大学)

石原 謙(愛媛大学)

昨年、東京大学大江和彦教授のご尽力により、大災害による病院情報システム障害の際にも全国2箇所のデータセンターにおいてSS-MIX等で確保できる「国立大学病院災害時バックアップシステム」が文部科学省予算で構築された。その間に開催された前回の部長会セッションテーマ「災害対策・アクセス制御」は、今なお解決されたとはいえない重要事項であるため、引き続き今回は、BCP(事業継続計画 Business Continuity Plan)についても、医療情報部門としての対応が求められているものとしてテーマに加えた。BCPは、セキュリティマネジメントなどを発端に、2000年頃から企業等で危機管理の一貫として実施されているものである。

医療情報システムから見るBCPについては、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.2版」で、「6.10 災害等の非常時の対応」の項に、大規模災害時を想定した事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)の作成が記述され、病院の外部監査などの際に指摘が始まっていることから、災害対応訓練や各種マニュアル策定の際にも具体的配慮が必要となってきた。

まだ十分に整備されているとは言えない病院のBCPや病院情報システムのBCPについて、このセッションを機に、各病院での検討が一步でも進めば幸いである。

1. 国立大学病院災害時バックアップシステムの概要と現状(仮題)

大江 和彦(東京大学)

2. 富士通ユーザー病院での被災時運用体制とBCPの現状と課題(仮題)

合地 明(岡山大学)

3. NECユーザー病院での被災時運用体制とBCPの現状と課題(仮題)

松村 泰志(大阪大学)

4. IBM ユーザー病院での被災時運用体制と BCP の現状と課題（仮題）
安積 良紀（三重大学）
5. 東芝ユーザー病院での被災時運用体制と BCP の現状と課題（仮題）
高林 克日己（千葉大学）
6. コアクリエイイトユーザー病院での被災時運用体制と BC の現状と課題（仮題）
下川 忠弘（久留米大学）
7. パネルディスカッション
・BCP をどう考えるか？ ・SS-MIX の試用経験から
・被災時のネットワーク確保は？ ・その他

4 診療情報管理

電子カルテを進化させるために診療情報管理ができること
～記録の質の視点から理想の電子カルテを考える～

日 時：2月12日（木）15：00～16：30

会 場：B会場（西館2階・月の間）

コーディネーター兼座長：吉野 孝博（福井大学医学部附属病院）

座 長：豊田 泉（岐阜大学医学部附属病院）

■ 昨年の当セッションでは「診療情報管理の10年先を考える。」として、診療情報管理部門が今後果たすべき役割について、現場スタッフの取り組みと、医療現場からの期待について議論し、その中で、「カルテの番人」というキーワードも出てきました。そこで、今回のセッションでは、番の対象である電子カルテについてテーマとしました。

さて、現在の電子カルテの記録では、読めるとか、量が豊富な点では進化したのですが、質の観点からは記載方法、記録の特定や保存先などの扱い、機能の観点からは診療現場や2次利用への配慮など、課題も多いと考えています。

また、記載内容の監査を行うには、監査の視点（基準）が必要になりますが、現状の電子カルテでは、記録の質がシステム機能に依存している部分も多く、運用等に配慮すると適切な記載を定義すること自体が難しい場合も多いと感じています。

そこで、「カルテの番人」である診療情報管理部門として、記録の質の観点から理想の電子カルテを考え、それを実現するために必要な要件について、画面構成や機能をはじめ、診療現場での運用、質の監査や2次利用など様々な視点から意見交換を行いたいと考えています。

1. 紙のクリニカルパスと電子クリニカルパスの混合運用形態での統合的評価記録導入とその成果

横田 慎一郎（東京大学医学部附属病院）

2. 医師と共に実施する電子カルテ記載監査
～診療報酬を中心とした記載監査の取り組み～

小窪 滋子（熊本大学医学部附属病院）

3. 電子カルテの量的監査・質的監査による診療記録向上について
廣瀬 弥幸（長崎大学病院）
4. 新規疾患別医療情報管理プログラム Clinilan View の臨床応用
末岡 榮三朗（佐賀大学）
5. 医療情報システムのリプレースで診療情報管理士が果たした役割の一例
初山 貴（北海道大学病院）
6. 全国大学病院における電子カルテ診療記録機能チェックプロジェクト
～第1弾チェック結果～
上田 郁奈代（大阪大学医学部附属病院）

5 看護

高度急性期医療を支える看護の質データの収集と活用

日 時：2月12日（木）13：30～15：00

会 場：B会場（西館2階・月の間）

コーディネーター兼座長：廣瀬 泰子（岐阜大学医学部附属病院）

座 長：萩原 絹子（長崎大学病院）

現在、医療界ではクオリティ・インジケター（QI）の一般公開や医師不足による看護業務拡大が図られようとしている。平成26年4月診療報酬改定においては、在宅復帰機能をもつことや診療内容を継続的に調査・分析するためのデータ提出加算が新設された。このような外部環境において、大学病院の一般病床においてはハイリスク患者の管理を行う状況にある。在院日数の短縮するなか、看護師には患者の状態や看護量を適確に判断し、持てるリソース・データを有効活用してPDCAサイクルを回すマネジメント能力の必要性が高まっている。本セッションでは、高度急性期治療を受ける患者の看護データや管理データを活用して医療機能の向上につなげる、あるいは生産性・収益性といった経営機能の向上につなげる取り組みについて議論頂きたい。

1. 看護必要度データを用いた看護の質の評価
秋山 智弥（京都大学医学部附属病院）
2. 看護QIプログラムによる病棟の質評価
米道 智子（富山大学附属病院）
3. 高度急性期医療を支える看護の質データの収集と活用
～整形外科病棟における転倒予防に焦点をあてて～
塚原 宣子（千葉大学医学部附属病院）
4. 変革期を迎えた大学病院看護部の課題
～看護業務の「可視化」に向けた取り組み～
岡田 みずほ（長崎大学病院）

5. 看護チーム間の協力体制強化のための業務量可視化ツール活用の取り組みと電子化の課題

岩下 明子（岐阜大学医学部附属病院）

6 歯科

歯科・口腔外科からみた医療システムの現状と課題、今後

日 時：2月12日（木）9：00～10：30

会 場：C会場（西館2階・花（南）の間）

コーディネーター兼座長：玉川 裕夫（大阪大学歯学部附属病院）

座 長：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院）

多くの大学病院や総合病院で診療録の電子カルテ化が進められている現在、その中の歯科・口腔外科は医科ベースの電子カルテでは歯科システムに十分に対応できず、各病院でより歯科・口腔外科に対応したシステムにする取り組みが必要となります。

今回は大学もしくは総合病院の中の歯科・口腔外科の歯科システムの現状と課題を中心に発表・議論を行いたいと考えており、歯科部門のテーマは「歯科・口腔外科からみた医療システムの現状と課題、今後」としました。4人の演者の方にはそれぞれの大学病院もしくは総合病院の歯科口腔外科部門の電子カルテについて経緯、現状と課題、今後の展望などを発表していただきます。4人の演者の発表をもとに活発な討論をしていただき、医学部附属病院や総合病院内での、よりよい歯科・口腔外科システムのあり方やその方向性を見つけられたらいいと思います。

1. 群馬大学医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科における電子カルテの問題点と解決案

小杉 謙介（群馬大学医学部附属病院）

2. 三重大学附属病院での歯科電子カルテシステムの現状と今後の課題

野村 城二（三重大学病院）

3. 岐阜大学医学部附属病院の歯科口腔外科電子カルテシステムの過去、現在、今後

牧田 浩樹（岐阜大学医学部附属病院）

4. 医科・歯科共存型電子カルテシステムの導入と問題点

山内 智博（東京歯科大学市川総合病院）

7 薬剤

医療連携の新展開

～入院、外来、在宅における薬剤情報マネジメント～

日 時：2月12日（木）9：00～10：30

会 場：B会場（西館2階・月の間）

コーディネーター兼座長：伊藤 善規（岐阜大学医学部附属病院）

座 長：寺田 智祐（滋賀医科大学医学部附属病院）

病院における業務の拡大に伴って、より質の高い医療を実現するために、がん化学療法をはじめ各種のチーム医療が推進されています。その流れは病院内に留まらず、病院間あるいは病院と調剤薬局間の連携にも広がっています。平成26年度診療報酬改定では、入院・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携や在宅医療の充実等が重点課題になり、多施設間連携がますます重要視されるとともに、そのためのICTを活用した情報の共有やインフラの整備が必要不可欠となっています。

本薬剤セッションでは、各種医療連携の新たな展開をテーマに、入院、外来、在宅の各領域の薬剤情報をいかにマネジメントするかについて報告して頂きます。今回は大学病院からだけでなく、特別に調剤薬局からの報告も頂き、双方の視点から活発な意見交換を行いたいと思います。

1. がん化学療法による悪心嘔吐予防における制吐薬適正使用ガイドラインの遵守傾向
～分散型研究ネットワークの実装～

堀 雄史（浜松医科大学医学部附属病院）

2. 医療情報を利用した感染制御職種間連携および地域連携の展開
丹羽 隆（岐阜大学医学部附属病院）

3. 院外処方せんへの臨床検査値表示による情報提供
～新たな病診薬連携の展開に向けて～

定金 典明（岡山大学病院）

4. 保険薬局との情報共有推進への取り組み
～入院から地域医療へ、シームレスな治療管理をめざして～

炭 昌樹（滋賀医科大学医学部附属病院）

5. 在宅医療における情報連携の課題とICTの活用状況
高島 英滋（平成調剤薬局）

8 放射線（医用画像）

医用画像データ・情報の今後のマネジメントを考える

日時：2月12日（木）13：30～15：00

会場：C会場（西館2階・花（南）の間）

コーディネーター：岡田 仁志（岐阜大学医学部附属病院）

座長：坂本 博（東北大学病院）

島井 健一郎（徳島大学病院）

医療機器やICTの進歩により放射線画像をはじめとする超音波画像、生体情報モニタ画像などの医療分野においてもワイヤレスによる受送信が行われるようになり、通信のセキュリティや電波環境の現状及び今後の対応について考えていかなければなりません。

また、診療情報の電子化により様々なシステム機器から画像情報が発生するようになったのは、各部門が専門的で高度な機能を提供しようと、それぞれ独立したシステムを導入すること

が多くなってしまった結果なのでしょう。それゆえ、画像情報の統合的な管理は非常に困難なものとなっています。

画像情報は放射線部門に限ったものではなく、本セッションでは病院全体の医用画像情報の統合管理基盤の整備ということで、今後を見据え、統合ストレージに関する話題を中心に医療情報システムの構築において重要なポイント及び問題点を指摘していただきます。そして、医療情報システム更新を終えられた経験から、電子保存三原則に関する新たなアプローチとして、画像情報にもオブジェクトストレージを用いた今後の方向性や期待感なども報告していただきます。

医用画像データ・情報の今後のマネジメントについて、各種医療情報関連学会との情報共有及び共同検討が病院全体の理解を深めるためには必要であり、本セッションの中で有意義な討論ができればと思っています。

1. 無線 LAN 対応型 FPD 導入に関する検討

澤頭 俊治（岐阜大学医学部附属病院）

2. 汎用画像管理システムの運用実績と画像情報の統合的な管理に向けた検討

谷川 琢海（旭川医科大学病院）

3. 統合ストレージを活用した情報マネジメント整備

島井 健一郎（徳島大学病院）

4. 長期間の医用画像マネジメントについて

木村 映善（愛媛大学医学部附属病院）

9 検査

検査室に潜むビッグデータの有効活用と診療支援

日 時：2月12日（木）13：30～15：00

会 場：D会場（西館2階・花（北）の間）

コーディネーター兼座長：古田 伸行（岐阜大学医学部附属病院）

座 長：岡田 健（岡山大学医学部附属病院）

臨床検査データは医療情報の中でも最も客観的なデータを提供できる情報源であり、病院で発生するさまざまな情報と結合することで、さらに有用な情報を得ることができる可能性を秘めています。しかし、これらのデータを利用する場合の問題点として、長期的精度の担保や多施設で統合する場合の正確度の確保、さらには、共通の検査コードや結果表現の標準化など、解決しなければならない問題が多数存在する。

本セッションにおいては、検査の長期的精度と検査コードの標準化に関わる諸問題について、次にそれらの整備されたデータを使用した病態解析事例、最後に多くの検査室において、ほとんど収集されることのない部門システムにあるビッグデータについて、現場主体のデータ収集の重要性と標準化に対して、一歩先を見据えた対応の重要性の話題提供を頂きます。

1. 臨床検査における長期的精度の実態と解決策

真鍋 史朗 (大阪大学)

2. 臨床検査ビッグデータ活用のためのインフラ

～共用基準範囲と JLAC コーディング体系～

康 東天 (九州大学)

3. 検査データの二次利用およびその支援の課題と取り組み

石田 博 (山口大学医学部附属病院)

4. 計測生ビックデータに潜む知識の発見

～血球粒度データからの知識発見事例～

片岡 浩巳 (高知大学)

10 地域連携

地域包括ケア時代の情報マネジメント

～地域における多職種・多施設の連携を推進するために～

日 時：2月12日(木) 10:30～12:00

会 場：A会場(西館2階・雪の間)

コーディネーター兼座長：櫃本 真聿 (愛媛大学医学部附属病院)

堀川 幸男 (岐阜大学医学部附属病院)

本シンポジウムのテーマを「地域包括ケア時代の情報マネジメント～地域における多職種・多機関の連携を推進するために～」とし、特にICTの有効活用に焦点を当て、情報ネットワークの構築および地域連携に関わる指標やデータベースのモニタリング等、情報マネジメントによる多職種多機関の連携推進について討議したい。とりわけ地域包括ケア時代を背景に、医療だけでなく、生活を重視した連携、つまり速やかに患者を生活に戻し、地域の“かかりつけネットワーク”を支える連携を目指した情報マネジメントを意識した報告およびディスカッションにしたい。

1. 地域包括ケア時代に向けての退院支援システム構築の試み

荻谷 三月 (岐阜大学医学部附属病院)

2. 地域包括ケア時代に向けたICTネットワークの有効活用

～あじさいネットの取組み～

松本 武浩 (長崎大学病院)

3. 地域包括ケア時代の情報マネジメントと大学病院の役割

島井 健一郎 (徳島大学病院)

4. 地域包括ケア時代の情報マネジメントと大学病院の役割

～地域連携部門の立場から～

鈴木 一郎 (新潟大学医歯学総合病院)

11 臨床研究・治験

臨床研究・治験を支援するシステム

日 時：2月12日（木）15：00～16：30

会 場：C会場（西館2階・花（南）の間）

コーディネーター兼座長：松村 泰志（大阪大学医学部附属病院）

座 長：青木 光広（岐阜大学医学部附属病院）

臨床研究・治験において、IT技術を活用して臨床研究体制を整備し、革新的医薬品・医療機器の創出や標準治療等のエビデンスの確立等を促進することの必要性・方向性が示されています。その具体的取り組みとして、治験関連文書の電子化、電子カルテシステムとEDC（Electronic Data Capture）の連動によるデータ収集、リモートSDV（Source Data Verification）によるモニター業務の効率化などが挙げられます。本セッションでは、臨床研究を重視する病院で、実際に運用されている事例や構築されたシステムを紹介していただきます。先行事例を題材として、本領域における現状の課題と解決に向けた方法について議論を深めたいと考えています。

1. 臨床研究情報基盤構築に関する研究

柴田 恭子（東北大学病院）

2. 情報化通信技術を利用した、臨床研究教育・支援システムの開発

西村 有起（三重大学医学部附属病院）

3. 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院における治験実施体制の現状及び治験プロセス効率化への取り組み

二川 俊隆（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院）

4. 電子カルテシステムによる臨床研究の支援

～電子カルテシステムからeCRFの作成、ODMによるCDMSとの連携～

三原 直樹（大阪大学医学部附属病院）

5. 臨床研究中核病院における地域医療連携を用いたリモートSDVの取り組みと課題について

横井 英人（香川大学医学部附属病院）

情報交換会

1 データウェアハウス

日 時：2月12日（木）10：30～12：00

会 場：C会場（西館2階・花（南）の間）

座 長：紀ノ定 保臣（岐阜大学医学部附属病院）

登壇企業：

株式会社医用工学研究所

株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン

富士フイルムメディカルエアソリューションズ株式会社

2 戦略的ネットワークの活用

日 時：2月12日（木）15：00～16：30
会 場：D会場（西館2階・花（北）の間）
座 長：紀ノ定 保（岐阜大学医学部附属病院）
登壇企業：

アライドテレシス株式会社
デル株式会社
シスコシステムズ合同会社

総会・閉会式

日 時：2月13日（金）10：05～11：30
会 場：A会場（西館2階・雪の間）

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1

インターシステムズジャパン株式会社

診療情報利活用を目的としたデータのモデリング・連携・集約の実践

日時：2月12日（木）12：15～13：15
会場：A会場（西館2階・雪の間）
座長：植松 裕史（インターシステムズジャパン株式会社）
演者：飯田 征昌（名古屋市立大学病院）

名古屋市立大学病院は、2003年末にほぼゼロベースで独自開発した電子カルテシステムの全面稼働を実施し、これに様々な部門システムを組み合わせ、独自の病院情報システムを構築・運用し現在に至っています。

その過程において、日々「本質的な診療録」の要件とこれを満たすアプローチとは何かという点を問い続けながら、日常診療の支援から蓄積されたデータの利活用などにおける種々の課題解決に向けた取り組みを進めてきました。

本講演では、統合的な診療情報集約と蓄積された情報の利活用事例を中心に、実現のための様々な技術やマネジメント手法についてご紹介します。

ランチョンセミナー2

富士フィルムメディカル株式会社

富士フィルムメディカル IT ソリューションズ株式会社

統合診療支援システムによる保険診療対策とデータ利活用

日時：2月12日（木）12：15～13：15
会場：B会場（西館2階・月の間）
座長：紀ノ定 保臣（岐阜大学医学部附属病院）

演者：長瀬 清（岐阜大学医学部附属病院）

チーム医療の推進により医療の質向上や標準化・効率化を図るためには、目的や情報共有がその端緒となる。患者情報の効率的な把握のために統合診療支援システムを導入することで、多数の患者の治療進捗状況が一画面で俯瞰できると情報共有が進み多職種による相互の連携や補完が容易になる。入院基本料の要諦でもある感染や褥瘡対策、栄養管理など多部署にまたがる組織横断的な取り組みは、病院全体の質向上をもたらすと考えられる。また統合診療支援システム導入により業務標準化も推進されると、診療情報に基づくデータ収集やその分析が容易になり、治療上の問題点の明確化や更に臨床指標の構築にもつながる。

ランチョンセミナー3

日本オラクル株式会社

SOA/EA 指向を取り入れた大規模医療機関における情報システム構成

日時：2月12日（木） 12：15～13：15

会場：C 会場（西館2階・花（南）の間）

座長：木村 映善（愛媛大学医学部附属病院）

演者：伊藤 義顕（日本オラクル株式会社）

演者：島井 健一郎（徳島大学病院）

医療と情報技術の日々の進化に伴い、医事会計システム、オーダーエントリーシステム、電子カルテなどの基幹系システムを中心に、各種部門システムが構築されている。

診療業務だけでなく、医療・福祉などの社会サービス・地域社会の変化の中、必要とされるシステム・情報マネジメント像も変遷し、情報システムをなくして、業務改善（BPR：Business Process Re-engineering）は行なえない時世であることは間違いない。

かつてより部分的に積み上げられて整備されている情報システム群も、大学病院などの大規模医療機関においては、今一度、中長期的な視座でのビジョン・情報化戦略を立案し、全体最適（SOA：Service Oriented Architecture/EA：Enterprise Architecture）指向を取り入れた、柔軟性に富んだシステム設計と、情報システム・インフラの整備/改変計画、投資（調達・保守）計画の再考が求められている。

本セッションでは、SOA/EA 指向に関連した様々なソリューションの紹介に加え、実際に、徳島大学病院・病院情報センターで考案している中長期的視座でのビジョン・情報化戦略・各種システムの再編方針や計画（案）を例示する。

情報化時代における地域包括ケア社会の中核を担う大学病院に必要とされる、これからの情報システム・マネジメント体制の共同検討・協議のきっかけになれば幸いである。

ランチオンセミナー 4

横河医療ソリューションズ株式会社

神戸大学医学部附属病院における PACS の現状

－クラウド導入による画像データの外部保管－

日時：2月12日（木） 12：15～13：15

会場：D会場（西館2階・花（北）の間）

座長：湊谷 浩司（横河医療ソリューションズ株式会社）

演者：村上 徹（神戸大学医学部附属病院）

神戸大学病院のCT、MR検査件数は、CTが年間約3万3000件、MRIが年間約1万4000件に上る。この状況の中で、現場で課題になっていたのが画像サーバの容量（年間発生データ量15T）の問題である。画像発生数の急増で、サーバ容量が逼迫し、その対策として毎年新たに保存用のハードウェアを追加する状況が続いていた。病院情報システムのリプレイス（2014年1月）とも重なるため、クラウドが利用できないかと考えていた。

しかし、外部保管については、各省のガイドライン、病院の個人情報管理規定、システムのパフォーマンス等も含め課題が多い。この状況下で、当院がどのようにクラウドを導入したかを紹介する。

イブニングセミナー

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

アウトカム向上への包括ケアソリューションの取組み

日時：2月12日（木） 16：30～17：30

会場：B会場（西館2階・月の間）

弘前大学 COI 拠点におけるビッグデータ解析の取組み

演者：村下 公一（弘前大学）

弘前大学は、文部科学省所管の科学技術振興機構における、革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）拠点に採択され、これまで10年間収集を続けてきた地元住民の健康・医療・生活習慣に関するデータの解析を開始した。本研究の目的は、ビッグデータを活用し早期発見の仕組みを構築すると共に、予兆に基づいた予防法を開発することであり、今回は、現状の研究成果と今後の方針について紹介する。

演者：川端 亮（GEヘルスケア・ジャパン株式会社）

医療従事者のお客様、患者様にとっての成果（アウトカム）向上を支援するのが、GEヘルスケアのミッションである。今回は、最新版のPACSからビッグデータへの取組みといった、世界規模で弊社が取り組む、ITを活用した包括ケアソリューション（Integrated Care Solutions）を紹介する。

モーニングセミナー

シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社

モバイルデバイスと仮想化がもたらすIT イノベーションによる医療ワークスタイルの変革

日時：2月13日（金） 7：45～8：45

会場：A会場（西館2階・雪の間）

演者：足立 修（シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社）

電子カルテや医療用画像など、秘匿性の高い情報を如何にしてセキュアにモバイルデバイスから活用するかに注目が集まっております。本セッションでは仮想化技術の活用によるイノベーションが医療業界が抱える問題や課題をどう変化させるのか、ライブデモや事例紹介を交えてに分かりやすいご紹介します

各種委員会

医療情報部長会・幹事会

2月11日（水）16：00～19：00 西館2階・花（南）の間

診療情報管理士連絡会

2月12日（木）10：00～11：00 D会場（西館2階・花（北）の間）

UMIN協議会幹事会

2月12日（木）16：30～17：30 E会場（本館2階・孔雀（西）の間）

UMIN小委員会（事務）

2月12日（木）9：00～10：00 D会場（西館2階・花（北）の間）

UMIN小委員会（薬剤）

2月12日（木）11：00～12：00 D会場（西館2階・花（北）の間）

UMIN協議会総会

2月13日（金）11：30～12：00 D会場（西館2階・花（北）の間）

運営委員会

2月13日（金）12：00～13：00 西館2階・楓の間

ポスター発表

日時：2月12日（木） 9：00～17：30

2月13日（金） 9：00～11：30

立会い：2月12日（木） 16：30～17：30（奇数：16：30～17：00、偶数：17：00～17：30）

（ポスター発表者は立ち会い時間中、ポスターの前に待機をお願いいたします）

会場：P会場（西館地下1階・ロイヤルシアター）

1 病院情報システム

P1-01 メール配信サービスによる待ち時間対策と患者サービスの品質向上の取組み

橋本 哲志（長崎大学病院 医療情報部）

P1-02 医療機関における院内無線LANによるインターネット接続環境の提供

鶴野 浩靖（富山大学附属病院 病院事務部 病院経営企画課）

P1-03 電子カルテに連携した重症患者管理システムの構築と活用の実際

原田 由美子（佐賀大学医学部附属病院 看護部）

P1-04 信大病院における医療音声記録システム『ケアボイス』導入報告

～インフォームド・コンセントの記録方法についての問題提起～

浜野 英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）

P1-05 電子カルテ導入に伴う組織改善

中山 雅晴（東北大学病院 メディカルITセンター）

P1-06 利用者統合認証システムの導入について

牛嶋 拓也（長崎大学病院 医療情報部）

P1-07 大学病院分院としてのSS-MIX2活用事例と課題

原田 慶一（九州大学病院別府病院 メディカルインフォメーションセンター）

P1-08 システムによる外来クランク代行業務の効率化について

村岡 健一郎（北海道大学病院 医療情報企画部）

P1-09 「電子カルテ」運用における不要オーダ削除の現状と分析について

～「電子カルテ」の適切な運用を検討するために～

佐藤 真子（筑波大学病院 医療情報部）

P1-10 北海道大学病院における外来予約メンテナンス運用の現状と新機能導入

杳澤 海（北海道大学病院 医療情報企画部）

P1-11 電子カルテと特定共同指導

～電子カルテシステムに求められる機能～

宇都 由美子（鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科）

P1-12 医療従事者への病院情報システム DWH 機能の開放

吉崎 真司（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

- P1-13 病院情報システムにおける薬剤禁忌情報の取扱い
井上 隆輔（東北大学病院 メディカル IT センター）

2 診療情報管理

- P2-01 電子カルテ導入後の紙文書の取り扱いについて
渡辺 瑞紀（筑波大学附属病院 医事課 病歴室）
- P2-02 医療文書作成支援システム運用の現状と課題
～診療録の完全電子化以降のスキャン文書との比較～
谷川 琢海（旭川医科大学病院 経営企画部）
- P2-03 統合型医用文書管理システム導入の取り組み
横山 瑠奈（北海道大学病院 診療録管理室）
- P2-04 インフォームドコンセント文書における文章の構造・標準化の推進と今後の展望
坂井 清太郎（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）
- P2-05 標準病名マスタ修飾語テーブル利用における合成語の現状と傷病名管理への課題
岩穴口 孝（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 医療情報部）
- P2-06 「DPC/PDPS 傷病名コーディングテキスト」に基づいた DPC コーディング精度向上への取り組み
杉野 サエ子（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 医療情報部）
- P2-07 診療記録の質の向上に向けた診療情報管理士のカンファレンス記録に関する取り組み
重岡 真実（三重大学医学部附属病院 医療サービス課診療管理係）
- P2-08 患者が見える記録、看護実践が見える記録
～質向上を目指した監査の仕組み～
鳥越 千秋（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 医療情報部）
- P2-09 管理料・指導料に関する診療録記載の監査について
～診療情報管理士が考える診療録～
井上 麻里子（福井大学医学部附属病院 医療サービス課）
- P2-10 長崎大学病院における副作用情報データベースの構築と課題
増山 優紀（長崎大学病院 薬剤部 薬品情報室）
- P2-11 がん診療に貢献できる症例データベースを目指して
穂積 浩美（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）

3 看護

- P3-01 看護必要度評価となる記録と監査の効率化に向けての取り組み
～看護必要度の監査からみる評価～
山口 真由美（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- P3-02 IMIS-8 稼働後のフリー入力の実態と今後の課題
山口 ひろみ（高知大学医学部附属病院 看護部）

- P3-03 重症度、医療・看護必要度の正しい評価に向けた取り組み
山田 楼子（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P3-04 「パス評価」様式の導入と現状について
～パス見直しにつなげる為の正確な評価入力を目指して～
岡村 大介（東京大学医学部附属病院 看護部）
- P3-05 平成 26 年度看護必要度改定に伴う活動報告
荒井 千芽（金沢大学附属病院）
- P3-06 看護基本情報システムにおける情報の共有と活用
～連携促進と効率化を目指して～
中山 志津（徳島大学病院 看護部）
- P3-07 看護情報収集支援画面の検討
村上 由香里（山口大学医学部附属病院 看護部）
- P3-08 NANDA-NOC-NIC による看護計画立案から「患者参画型看護計画立案方式」への転換
～「寄り添う看護」の実現に向けた看護記録～
松尾 理香子（長崎大学病院 看護部）
- P3-09 患者参画型看護計画立案方式導入後の記録の監査と今後の課題
後田 実知子（長崎大学病院 看護部 看護記録検討プロジェクト）
- P3-10 看護とは何か ～それぞれが「目指す看護」を可視化する～
中村 裕子（長崎大学病院 看護部）
- P3-11 「寄り添う看護」の実現に向けた取り組み
～長崎大学病院版患者参画型看護計画立案方式に合致する
電子カルテ機能の検討とシステム導入に向けた取り組み～
岡田 みずほ（長崎大学病院 看護部・医療情報部）
- P3-12 鹿児島大学病院の誤嚥性肺炎発症予防への取り組み
～テキストマイニングを応用した効率的な発症予防の実現へ向けて～
村永 文学（鹿児島大学病院 医療情報部）
- P3-13 入院基本料等に係る看護師の病棟外勤務の時間管理システム
中山 眞由美（富山大学附属病院 看護部管理室）
- P3-14 モバイル端末を用いた看護業務支援システムの変更・導入報告
篠原 弘枝（信州大学医学部附属病院 看護部）
- P3-15 看護ケア量の可視化による勤務体制の検討
江崎 美紀（岐阜大学医学部附属病院 看護部）
- P3-16 看護師による患者指導の可視化
指導の種類に着目したテンプレートを作成して
疋田 智子（京都大学医学部附属病院 看護部）
- P3-17 電子カルテのチーム医療専用ツールを活用した退院支援システムの再構築
三井 貞代（信州大学医学部附属病院 看護部）

- P3-18 共有病床における眼科電子パス運用の現状と課題
吉松 聡 (広島大学病院 看護部)
- P3-19 キャリア形成支援システムの開発
～キャリアパスと連動した人材養成システムの構築～
近藤 佐地子 (徳島大学病院 看護部)
- P3-20 美術的情報デザイン手法を用いたワークショップによる効果
藤満 幸子 (佐賀大学医学部附属病院 看護部)
- P3-21 新規採用看護師への電子カルテ操作研修の取り組みとその効果
塘田 喜代美 (熊本大学医学部附属病院 看護部)
- P3-22 看護提供方式変更に伴う新人教育標準計画の作成
～インシデント分析システムを活用して～
平岡 佐織 (岐阜大学医学部附属病院 看護部)
- P3-23 看護アセスメント能力アップシートの活用
～事例検討からみえてきた課題～
松本 和恵 (鳥取大学医学部附属病院 看護部)
- P3-24 看護情報システム担当者の業務の実態と育成のあり方
伊藤 友美 (岐阜大学医学部附属病院 看護部)

4 歯科

- P4-01 日本歯科大学附属病院への紹介患者の内訳
～標本抽出による予備的調査～
安藤 文人 (日本歯科大学附属病院)
- P4-02 新潟大学病院歯科におけるFAX予約の導入と患者受診動向
新美 奏恵 (新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部)
- P4-03 歯科電子カルテ運用開始後のユーザーの評価
佐藤 智昭 (東北大学病院 メディカルITセンター)

5 薬剤

- P5-01 大学病院における院外処方箋への検査値の表示状況
池田 和之 (奈良県立医科大学附属病院 薬剤部)
- P5-02 院外処方の充実化への取組と成果
横山 威一郎 (千葉大学医学部附属病院 薬剤部)
- P5-03 Filemaker Server を用いた、個人情報を含む業務データベース管理への取り組み
本多 立 (三重大学医学部附属病院 薬剤部)
- P5-04 医薬品リスク管理計画 (RMP) にどのように取り組むか?
幸田 恭治 (山口大学医学部附属病院 薬剤部)

6 放射線（医用画像）

P6-01 放射線治療計画の保管機能を有する PACS の有用性と課題

相田 雅道（広島大学病院 診療支援部）

P6-02 放射線部自動受付システムの紹介と問題点

近藤 泰史（大分大学医学部附属病院 医療技術部放射線部門）

7 検査

P7-01 採血・採尿システム更新時のシステム設計について

川下 隆二（岡山大学病院 医療技術部）

P7-02 長期検査データの活用に必要な検査項目カタログシステムの構築

小林 利彦（山口大学医学部附属病院 検査部）

8 地域連携

P8-01 肝炎患者における就労相談窓口の設置

仕事と治療の両立を支援する相談窓口をご存じですか？

長内 恵理（香川大学医学部附属病院 肝炎治療相談窓口）

P8-02 ベンダー非依存の地域医療連携システム

日本標準 SS-MIX2, DICOM から世界標準 XDS/XDS-I へ

近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）

9 臨床研究・治験

P9-01 筑波大学附属病院 未来医工融合研究センターの取組

～医療現場での“真の”医工連携を目指して～

池田 一郎（筑波大学附属病院 総務部経営管理課）

テーマポスター

病院運営を支える事務組織の活性化・人財育成について

- | | | |
|----|--|-------------|
| 1 | 患者待ち時間の患者アンケート調査と実測値の比較
～比較結果から見えた課題～ | 秋田大学医学部附属病院 |
| 2 | 医療系技術職員（看護師を除く。）及び病院専門事務職員を
任期なし年俸制常勤職員として雇用する制度を導入（H26.4.1 施行） | 群馬大学医学部附属病院 |
| 3 | 病院運営管理プロジェクトチームの船出
～管理会計システム「HOMAS」の安定運用に向けた組織変革～ | 群馬大学医学部附属病院 |
| 4 | 多職種が参加し効果的で効率的な病院経営を目指す『経営戦略会議』 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 5 | 専門性を備えた事務組織形成のための千葉大学病院の取り組み | 千葉大学医学部附属病院 |
| 6 | 外見ケア（治療に伴う種々の外見変化の改善）
～がんと共に生きる患者のQOL向上を目指して～ | 東京大学医学部附属病院 |
| 7 | 東大病院募金の新設
～診療活動の充実に向けて～ | 東京大学医学部附属病院 |
| 8 | 長崎大学における算定ベンチマークによる医事課請求業務改善の取
組み | 長崎大学病院 |
| 9 | 国立大学病院におけるデータの分析・有効活用の活性化に向けて | 東京大学医学部附属病院 |
| 10 | データベースセンターにおける各種データを活用した他大学とのベン
チマーク
～経営改善事項の企画立案に向けて～ | 琉球大学医学部附属病院 |
| 11 | 医療材料のコスト見直しに向けた取り組み | 東京大学医学部附属病院 |
| 12 | 高度医療クラーク養成講座の実施状況について | 東京大学医学部附属病院 |
| 13 | 病院運営の土台となる若手事務職員の育成について
～第8回 国立大学附属病院若手職員勉強会～ | 東京大学医学部附属病院 |
| 14 | 多職種連携で取り組む人材育成
～看護体験研修を通じて～ | 東京大学医学部附属病院 |
| 15 | 国立大学附属病院における人材育成に対する取り組み
～病院に求められるミドルリーダーの役割とは～ | 東京大学医学部附属病院 |
| 16 | 病院管理会計システム HOMAS2 の取り組みについて | 東京大学医学部附属病院 |
| 17 | 職員の提案で病院の機能向上をはかろう！
～病院改善提案プロジェクト～ | 新潟大学医歯学総合病院 |
| 18 | 病院業務プロフェッショナル職員養成に向けた取り組み
～気づき検討会・課内研修を通して～ | 福井大学医学部附属病院 |
| 19 | 病院事務職員育成のための研修・勉強会
～病院のプロじゃないと、ダメよ～ダメダメ～ | 信州大学医学部附属病院 |
| 20 | 問題管理票システムによる障害内容分析と改善方法の提案 | 岐阜大学医学部附属病院 |

- | | | |
|----|---|---------------------------------|
| 21 | 医療情報技師としての保有能力の開発方法の検討
～キャリア開発ラダーの作成～ | 岐阜大学医学部附属病院 |
| 22 | 病院運営を支える人財育成マトリックス
～浜松医大的 人財育成3本の矢～ | 浜松医科大学医学部附属病院 |
| 23 | 新たな病院運営を構築するための組織・人財育成の取り組み
～中部地区における病院調達業務実務担当者のネットワーク作り～ | 名古屋大学医学部附属病院 |
| 24 | 新たな病院運営を構築するための組織・人財育成の取り組み
～地域包括医療連携モデル事業（JP プラン）～ | 名古屋大学医学部附属病院 |
| 25 | 三重大学病院の病院機能強化・維持のために
診療情報管理士に着目した取り組み | 三重大学医学部附属病院 |
| 26 | 滋賀医大版医療の質についての指標
～QI を用いた医療の質向上への取り組み～ | 滋賀医科大学医学部附属病院 |
| 27 | 京大病院における特色ある組織と取組の紹介
～診療報酬センターの設置及びその取組について～ | 京都大学医学部附属病院 |
| 28 | 多様化する病院業務を担う事務組織強化への取り組み | 大阪大学医学部附属病院 |
| 29 | 事務組織の改編
～研究支援体制の強化にむけて～ | 鳥取大学医学部附属病院 |
| 30 | 医事課事務（医療事務）職員の専従化から
登用制度（キャリアアップ）・勤務評価制度の確立へ | 岡山大学病院 |
| 31 | 徳島大学病院専任事務系職員の配置とキャリアパスについて | 徳島大学病院 |
| 32 | DPC 別収支分析を活用した指標動向把握について
（重要指標項目と補足項目による多視点可視化モデル） | 愛媛大学医学部附属病院 |
| 33 | クリニカルパスチームのイノベーション
～新たな組織作りと運用を目指して～ | 高知大学医学部附属病院 |
| 34 | 人財育成 医療経営士という選択
～病院経営の総合知識を学び、見識を高めて実践する～ | 長崎大学病院 |
| 35 | 特定薬剤治療管理料の算定率向上対策とその効果
～他職種連携チームでの取り組み～ | 長崎大学病院 |
| 36 | 九州地区国立大学病院事務協議会の見直し
～九州における国立大学病院事務部の連携モデル～ | 長崎大学病院 |
| 37 | 医療系スペシャリストのキャリアパス
～医療現場を支える人財育成～ | 熊本大学医学部附属病院 |
| 38 | BI ツールを用いて医事診療データを見える化し病院経営改善を探る取
り組み | 大分大学医学部附属病院 |
| 39 | 大学病院間連携による人財育成と活用
～九州地区における国立大学病院事務部の連携モデル～ | 九州地区国立大学病院事務部
長会議 |
| 40 | 収支差比率、簿価率等のベンチマークによる一考察
～第2回国立大学附属病院関係決算実務勉強会グループワークより～ | 全国国立大学病院事務部長会議
財務分析ワーキンググループ |